

手彫鳥15銭の1枚貼りカバーと「書き十」

川原 啓一郎

長崎から横浜を經由して米国のオハイオ州クリーブランド宛の書状である。米国宛の書状料金は1875年1月1日から12月31日までは15銭で、日付が変わり翌年になると10銭に引き下げられた。従って手彫鳥15銭1枚貼りの書状は1875年、また切手に押された長崎の時刻入り欧文日付印により12月2?日に差し立てられたとなる。

そして朱色の YOKOHAMA / PAID ALL 印により1876年1月4日に横浜で再度船に乗せられ、同年1月25日にサンフランシスコに到着している。

この書状を運んだ船は(株)鳴美発行の「横浜港 SHIPPING リスト」より米国のパシフィック・メール汽船会社所有のシティ・オブ・トウキョウという船名の、サンフランシスコ～横浜・香港間に就航した鋼鉄製の蒸気船5079tあったと推定される。

シティ・オブ・トウキョウは当時世界で二番目に大きな船であったが、1885年6月に東京湾口で座礁し、台風の来襲と重なり全乗客と積み荷の一部を回収して沈没したとある。処女航海が1875年4月であるから10年で命運がついたことになる。

サンフランシスコから東部までは1869年5月に開通したアメリカ横断鉄道により迅速に運ばれたと考えられる。

長崎 1875/12/2? → 横浜 1876/1/4 → サンフランシスコ 1876/1/25



鳥15銭には、ロの5番切手に通称「書き十」というバリエーションが存在することが知られてる。右側額面の「十五銭」の十の文字が筆書きとなっているもので、澤まもる氏によると45枚ほどが存在するのではとある。



「書き十」部分の拡大図 →